

香南市産業振興計画
推進分野別部会からの報告書

● 農業部会	1 ～ 4 ページ
● 林業部会	5 ～ 8 ページ
● 水産業部会	9 ～ 11 ページ
● 商業部会	12 ～ 16 ページ
● 工業部会	17 ～ 20 ページ
● 観光部会	21 ～ 26 ページ

令和6年度 第3回 香南市産業振興計画 農業部会 報告書

◇ 部会委員 ◎ 部会長 ○ 副部会長

	氏名	所属	出欠
1	◎石丸 典男	JA 高知県香美地区果樹部	出
2	○小松 哲	JA 高知県香美地区ニラ部会	出
3	◇橋本 治夫	香南市認定農業者連絡協議会	出
4	◇百田 彰和	香南市有害鳥獣被害対策協議会	出
5	◇白石 浩一	JA 高知県香美地区香美営農 経済センター(営農指導課)	出
6	◇楮佐古 正志	高知県農業共済組合東部支所	出
7	◇橋田 祐二	高知県中央東農業振興センター 農業改良普及課	出
8	◇山本 茂夫	香南市農業公社	出

	氏名	所属	出欠
1	小松 大洋	農林水産課	出
2	佐田 和章	農林水産課	出
3	久武 正和	農林水産課	出
4	澤村 龍哉	農林水産課	出
5	府川 早苗	商工観光課	出
6	小林 辰徳	企画財政課	出

☆ 当日の流れ

1. 開 会 (挨拶)

2. 議 事

- ・令和6年度の進捗状況について(10 月末時点)
- ・第3期 香南市産業振興計画 農林業分野の取り組み(案)について
- ・その他

3. 今後のスケジュールについて

4. 閉 会

○『令和6年度の取り組み』について【PDCA】

【P】（目標値）

- 令和6年度数値目標 : 『 新規就農者数 10 人 /年 』
- 実績値（R6年 10 月末） : 『 新規就農者数 9人 /年 』

【D】（取り組み内容）

- 関係機関が連携し、新規就農相談に対応。また、研修生及び研修受入農家へのサポート体制の強化により研修中から就農までの計画等における支援を図ってきた。
- JA 及び高知県中央東農業振興センターとの情報共有及び就農相談を行った。
- JA 及び高知県中央東農業振興センターと連携し各種補助事業の周知を図り、活用につなげた。

<具体的な取り組み(資料1より抜粋)>

◆担い手確保に向けた取り組み

- ・新規就農者総合対策事業や担い手支援事業などの国・県事業から活用を検討し、補助要件に満たない就農希望者も含め市単独事業でもサポート。幅広い事業の活用で担い手の支援を行ってきた。
- ・上記の事業実施により、ニラを中心にピーマン、果樹等の品目で担い手を確保。
- ・6月の市広報や、10月の大阪での就農相談会(れんけいこうち事業)にて事業の周知活動を実施。

◆経営改善・農地維持に向けた取り組み／◆農業生産基盤の充実に向けた取り組み

- ・園芸用ハウス整備事業では流動化区分を中心に事業要望に対応している。今後は高度化区分1件の予定もあるが、ハウス資材の高止まり傾向による影響が大きく、新規での建設希望者は昨年に続き少なかった。次年度に向けた要望調査ではハウス新設希望者も増えてきているため、中古ハウスの改修・移設(流動化区分)と合わせて事業活用に対応していく方針。
- ・人・農地プランの法定化による地域計画策定に向け、市内18地区で協議の場を開催してきた。R6年度内に全地区で計画策定する予定であり、引き続き関係機関との連携を深めていく。

【C】（チェック/確認）

- 新規就農相談は昨年度を少し下回る件数で推移しているが、相談内容の傾向としてはこれまでと大きな変化はなく、家庭の都合や所得要件などで補助事業の要件と合致しないケースも多い。親元就農の相談などであれば、市単補助金の活用に繋げ、就農支援を行っていく。
- 重油流出防止付燃料タンク整備事業は、災害リスクへの対応策として普及啓発を行っているところではあるが、採算性が低いことを理由に民間事業者が実施に踏み切らない実情もあり、目標値と実績値で乖離が大きくなっている。加温品目の生産者部会に周知して回っており、今後の事業活用につなげていきたい。
- 昨年は豚熱の影響などもあり、イノシシによる農業被害の報告や駆除依頼が大幅に減っていたが、今年は相

談も被害も非常に多い。指標としては実績が低くて C 評価、高くて A 評価となっているが、実情としてはその逆となるため、指標の評価を見る際には注意が必要。

【A】（アクション /改善）

- 1 月に東京・大阪で行われる移住フェアへの出展が決まっており、これら就農相談会にも出展しているが、今後は地域おこし協力隊のみかん研修生の確保に向けても積極的にPRしていく。
- JA・高知県中央東農業振興センターと情報共有・連携し各種事業の周知を図るとともに、相談者それぞれのビジョンにあった支援を検討。研修段階からサポートしていく。
- ピークは過ぎたかもしれないが、資材や燃料代は高止まり傾向にあり、依然として厳しい状況が続くが、国・県事業を含め複合的な事業活用の提案を行うことで、ハウス・各種装置・設備の導入や更新に向けてのニーズの掘り起こしを行う。
- 今年度内に一旦は地域計画の策定を完了させるが、今後は定期的に見直しを行い、本計画の精度を高めしていくことで中心経営体への農地の集積・集約につなげていく。また、基盤整備事業については実施可否も含め地域との協議を引き続き行っていく。

○ 10 月までの取り組みについてのご意見やご提案

◇ 新規就農者向けの補助事業について

- 要件の一つである世帯所得 600 万円について、これを超えて交付停止となる方の割合はどれくらいいるか。600 万円を超えていきなり停止ということではなく、段階的に交付額を減らすといった形への変更など検討できないか。（小松委員）
 - 1～3 年目くらいまでは経営初期で大変な部分も多く要件を超えることはないが、それ以降では、その要件を超えられるように指導もしている。（白石委員）
 - 配偶者の方が農業以外で稼いでいる人もいると思う。所得 600 万円あれば交付停止でもいいのではないか。（石丸委員）
 - 交付停止となる方の割合は出していないが、白石委員が言われるように交付停止になるくらい稼いでほしいと思ってサポートしている。また、所得 600 万円ラインを超えている方は経営が安定してきている方が多いので、補助金に頼る必要もなくなってきた。国事業に関してはなかなか要件緩和が難しいが、機会があれば県を通じて意見を上げていく。（事務局）

◇ 地域計画について

- 計画の全容というか、目的とするところなど理解が難しい部分がある。（小松委員）
 - 元々は「人・農地プラン」というものがあつたが、全国的に形骸化している現状を踏まえて、もっと地域に入り込んで、農家の皆さん自身が地域の課題を洗い出し、あるべき姿を考えていくということが地域計画の入口。その中で目標地図により地区の農地の見える化を行うことで規模拡大志向の農家さんなど担い手への集約・集積を進める。利用権設定による貸借が廃止され、中間管理機構による貸借に移行していくことも、その手段の一つと考えている。しかし、国の描く地域計画と地方での現実とのギャップは大きく、理解しづらい部分につながっていると思われる。今後の定期的な見直しにより、少しずつでもより良い計画にしていきたい。（事務局）

- 例えば、野市でも宅地化が進み、“ここは農地としての確保が難しい”といったことや、高規格道路から南側など“ここは農地として今後も確保していかなければならない”といったことを農家として、地域として意見を集め 10 年後の将来像を描いていく、そういった計画。アンケートをしても回収が難しく地図がなかなか埋まらないので、そこを少しずつ埋めていく必要がある。野菜にしても、果樹にしても、この計画をうまく活用して基盤整備なども進めるなど、これからを担う若手のためにも『生き残りをかけた産地づくり』をしていかなければならない。(石丸委員)

◇ 特別栽培米について

- 先日開催された第2回策定委員会の中で、特別栽培米はコストがかかるため販売価格(学校給食に使用の場合は給食代)が上がるのではないかと確認したところ、慣行栽培より手間暇はかかるかもしれないが、農薬・肥料代は減るためコストはかからない。あくまで付加価値による市場価格の上昇と説明を受けた。これは除草剤なども一切使用できないのか。(石丸委員)
- 県が定める栽培慣行基準があり、特別栽培米は、その対象農薬等をその半分以上に抑える必要があるが、半分以上であれば使用は可能。(山本委員)

○ 第3期 香南市産業振興計画 農林業分野の取り組み(案)について

◇ 酪農家への支援について(本計画にない部分への意見)

- 全国的に酪農家の減少が続いており、今年度県下でも約 10 軒減少。将来的に安定した牛乳の供給が困難になってくる。市内では2軒の酪農家がいるが、既存酪農家への支援が国事業も含め乏しい現状がある。難しいかもしれないが、何か支援策があれば事業継続にもつながるのではないか。(楮佐古委員)
- 本市でも担当を置き、巡回の中で経営面での課題や業界を取り巻く厳しい状況については話を聞いている。市独自の補助金といった支援は難しい部分もあるが、近隣市町村と連携し、関係機関等で構成する協議会事業の支援などはしっかりと継続していく。(事務局)

部会開催日:R6.12.20(金)

14:00～15:30

令和6年度 第3回 香南市産業振興計画 林業部会 報告書

◇ 部会委員 ◎ 部会長 ○ 副部会長

	氏名	所属	出欠
1	◎三谷 幸寛	香美森林組合	出
2	○公文 敬介	高知県中央東林業事務所 振興課	出
3	井上 美穂	公益社団法人 高知県森と緑の会	出
4	堀田 幸生	雑木バードカービング作家 森林環境学習講師	欠
5	小原 忠	一般社団法人 高知県木材協会	欠
6			
7			

	氏名	所属	出欠
1	小松 大洋	農林水産課	出
2	佐田 和章	農林水産課	出
3	久武 正和	農林水産課	出
4	澤村 龍哉	農林水産課	出
5	長田 滉平	農林水産課	欠
6	府川 早苗	商工観光課	出
7			

☆ 当日の流れ

1. 開 会

2. 挨拶(農林水産課長)

3. 議 事

- ・ 第2期 香南市産業振興計画 令和6年度進捗状況について(10月末時点)
- ・ 第3期 香南市産業振興計画 農林業分野の取組み(案)について

4. その他

5. 閉 会

○「令和 6 年度の取組み(10 月末時点)」について【PDCA】

【P】(目標値)

○ 令和 6 年度数値目標 : 『 間伐面積 合計 51ha 』

○ 実績値 (令和 6 年 10 月末) : 『 間伐面積 合計 0 ha 』

【D】(取組み内容)〈資料 1 より抜粋〉

○ 意向調査の実施

夜須町細川地区(11 月末発送済み)、沢谷地区(12 月発送予定)の森林所有者へ意向調査を実施する。

○ 森林管理制度森林境界明確化委託事業

香美森林組合と契約し、夜須町沢谷にて約 53ha の境界明確化を実施予定。

○ 間伐事業 (保育・搬出間伐)

夜須町沢谷にて保育間伐を 4.77ha 実施予定。香我美町撫川・奥西川、夜須町仲木屋にて搬出間伐を 60.41ha 実施予定。

○ 木育事業

1.木育イベントの開催

ファーストスプーン事業を計 2 回実施済み。

2.保・幼・小・中学校での森林体験学習の実施

農林水産課実施分として計 7 回実施済み。

学校教育課実施分として計 2 回実施済み。

3.木育事業全般に係る周知活動

香南市ケーブルテレビと連携して放送中の番組「木育 Baby」により、「香南市の森からの贈り物事業」の周知を行った。

4.香南市の森からの贈り物事業

市内の乳児 17 名に木製玩具を贈呈済み。(97 名分発注済み)

- 5.市内の小・中学校に県産材を活用した木製備品を贈呈
香我美小に木製備品(本棚)を贈呈に向け、現在調整中。

【C】(チェック/確認)

○意向調査・森林境界明確化について

令和5年度に意向調査を実施した森林の中で、意向調査の回答が無く、現在の所有者が不明な森林が存在するため、所有者特定に向け探索が必要である。

○間伐事業について

間伐事業において、市補助金は県の上乗せ補助であるが、今年度は県補助金の予算があまりなく、間伐実施済みの森林の採択が下りず、市補助金の申請ができていない状況。今後の間伐については県の動向を確認しつつ、検討していく必要がある。

○木育について(森林体験学習)

所属長会等で事業について周知を行い、新たな学校や施設で森林体験学習が実施できるよう取り組んでいく。

○木育について(森からの贈り物事業)

香南市森からの贈り物事業の申請割合を100%に近づけるため、周知活動の強化、申請方法の簡素化に向けて、調整していく必要がある。

【A】(アクション/改善)

○意向調査・森林境界明確化

意向調査について、返送がない森林所有者については、今後も引き続き後追いをしながら、林業事業体と連携し、所有者特定に努めていく。

○間伐事業について

間伐においては、県の今後の動向を確認しつつ、林業事業体と協議を行っていく。

○木育について(森林体験学習)

森林体験学習については、学校以外でも個別に周知を行い、児童クラブや森田村塾等で新たに実施をすることができており、引き続き新たな場所で実施できるよう積極的に周知を行う。

○木育について(森からの贈り物事業)

香南市森からの贈り物事業の申請方法については、今まで毎月案内文書を郵送していたが、10/1より市民保険課窓口(出生届時)にて直接説明をし、来庁時にそのまま申請できるように変更した。

○ 10月までの取り組みについてのご意見やご提案

○搬出間伐について

11月以降の実績見込みとして、60.41haでお伝えをしていたが、R6年度はもう少し追加で計上できる見込みであり、現時点で85.08ha程間伐を終える見込みとなっている。(資料修正済み)

○林業者の人材について

林業大学校では毎年 15～20 人くらいが卒業している。定員については 60 人ほどで3分の 1 程しかいないのが現状である。今年度の募集については今までよりさらに難航しているそうで、10 人も満たない程しかいない状況となっているとのこと。

森林組合としても人員が不足しているが、そもそもの林業大学校への入学自体が少ないことが懸念点である。しかし、令和7年度より林業についても研修制度が導入され、他業種同様に外国人の受け入れが進んでいくようになっている。ただ、開始されたからといってすぐに雇えるようにはならないと思うので、時間をかけて受け入れ態勢を整えていく必要がある。

○ 第 3 期香南市産業振興計画 農林業分野の取り組み(案)について

○意向調査について

令和 7 年度～9 年度については夜須町羽尾地区林班 31、香我美町別役地区林班 71、舞川地区林班 46、正延地区林班 71・72 にて新たに意向調査を実施する。

意向調査の目標値については、令和 8 年度～令和 10 年度に境界明確化の実施予定地を基に林業事業体と協議を行い、それぞれの前年度に意向調査を順番に進めていく形で計画をし、各地区の実施できる最大面積で目標設定をしている。

○間伐事業について

令和 7 年度～9年度に香我美地区・夜須地区にて間伐を行う。

目標値については林業事業体と協議の上で、各年度実施できる最大量で目標設定をしている。

● その他

令和 6 年度のスケジュールについて説明。

⇒質問等特になし。

令和6年度 第3回 香南市産業振興計画 水産業部会 報告書

◇ 部会委員 ◎ 部会長 ○ 副部会長

	氏名	所属	出欠
1	◎中田 和伸	高知県漁業協同組合 手結支所長	出
2	○山下 太造	高知県漁業協同組合 赤岡統括支所長	出
3	本田 和仁	赤岡パッチ組合船主会 会長	出
4	野村 操	吉川町パッチ網船主会 会長	出
5	岡西 美延	手結地区漁業者(シイラ漁)	出
6	北垣 博則	(有)土佐角弘海産 ジャコ加工業者	欠
7	松崎 真哉	(株)サンシャイン介良 販売業者	出
8	土居 聡	高知県水産振興部中央漁業指導所 所長	出
9	山下 樹徹	一般社団法人 高知県漁業就業支援センター マネージャー	出
10	吉岡 みどり	(有)吉川水産 内水面養殖業者	出

	氏名	所属	出欠
1	小松 大洋	農林水産課	出
2	佐田 和章	農林水産課	出
3	川西 貴祥	農林水産課	出
	傍聴		
	府川 早苗	商工観光課	出
	小林 辰徳	企画財政課	出

☆ 当日の流れ

4. 開 会

2. 課長挨拶

5. 議 事

- ・ 第2期 香南市産業振興計画 令和6年度進捗状況について(10月末時点)
- ・ 第3期 香南市産業振興計画 水産業分野の取組み(案)について
- ・ その他

4. 閉 会

○『令和 6 年度の取組み(10 月末時点)』について【PDCA】

【P】（目標値）

○ 令和 6 年度数値目標 : 『 沿岸漁業総生産額 305 百万円/年 』

○ 実績値 (R6 年 10 月末) : 『 沿岸漁業総生産額 192 百万円/年 』

【D】（取り組み内容）

- 漁船導入事業は(一社)高知県漁業就業支援センター及び希望漁業者と協議し支援につなげた。
- 魚価の向上は、自然状況により好不漁があるものの、昨年度と比較しシイラが好漁であった。シラスの最盛期を今後迎えるため、動向を注視したい。
- 香南市の操業形態では 1 人での操業が厳しい状況である。担い手の確保に向け、(一社)高知県漁業就業支援センターと連携しフェア等に参加している。

<数値目標に向けた取り組み(資料 1 より抜粋)>

◆地産の強化

- ・水産機能施設及び漁港施設の整備を実施し、漁業関係者が安全に漁業活動を出来るよう事業を実施した。
- ・漁船導入事業は、R5 年度に交付決定済であったが、機器類等の納品に時間を要したため、R6 年度へ繰越を行って実施した。

◆流通・販売の強化

- ・学校給食への納入は、R6 年 9 月から赤岡・吉川給食センターがこうなん給食センターに統合となったため、納入回数が減となる可能性があるものの、給食センターと連携しながら、食育等を通じて市内水産物を PR した。

◆担い手の確保

- ・R5 年度から継続して雇用型漁業支援事業を活用している漁業者 1 名については、R5 年度実績となるため、R6 年度は実績 0 となるがフェア等に参加し PR 活動は行っている。

【C】（チェック/確認）

- シイラの生産量は前年同月比 417%となっており、平均 kg 単価は前年同月比 70.8%となった、イワシシラスの生産量は前年同月比 120.1%となっており、平均 kg 単価は前年同月比 77.5%となっている。浜値は生産量に左右されるものの、目標値は上回っている。
- 高知県漁協手結支所の販売額はフィレ加工の販売額であり、シイラ全体の販売額では 5,000 万円を超えており、フィレ加工まで回らない状況であったため、フィレ加工販売額が大幅な減となった。

【A】（アクション /改善）

- 高知県漁協手結支所のフィレ加工の販売額を向上するため、パートや短期就業者など考えたものの、衛生管理の高度化により人選が難しいが、解決に向けて協議していく。
- 学校給食への納入は、釜揚げ体験などを実施し、食育を通じて市内水産業のPRを行ったため、今後も引き続き実施していく。
- 漁業者の高齢化により担い手不足が顕著であり、担い手対策をより多く広く周知していく。

○ 10月までの取り組みについてのご意見やご提案

◇担い手について

- ・個人で操業している経営体が多いが法人化することも考えないといけない。（山下委員）
 - 今までは身内からの確保があったが、外からの確保する必要がある（土居委員）
 - 漁師の収入が減となり、若者が来ない。魅力がない。（野村委員）
 - 漁師が儲けるためには・・・、という視点から考えないといけない（山下委員）

◇漁獲量の向上

- ・最近特に干物を食べなくなっている。小学生の親世代が食べなくなっているの、給食へ地元産を納入することはいい取り組みだと思う。（松崎委員）
- ・県で気象衛星を活用し潮の予測を行う取り組みを行っている。メジカを対象にしているが、イワシシラスにも活用できないかを協議したが、今の衛星技術では難しい。（土居委員）
- ・多角経営化を考えてみてはどうか。シイラやシラスを缶詰とかにはできるか。シイラのフレークなどできれば販路が広がるのではないかと。（吉岡委員）
 - 高台にそういった工場ができれば防災拠点にも繋がるし、加工場ができれば販路は広がる

（中田委員）

○ 第3期香南市産業振興計画 水産業分野の取り組み(案)について

◇漁獲量の向上

- ・河口付近では獲れているため、河口付近とそうでないところの調査が必要（野村委員）
 - 以前県で潮の調査を行ったことがあるが、現在行っているかは不明（山下委員）
- ・シイラを通年できるか（山下委員）
 - 通年漁獲したいが底引き網との調整が必要だが難しい。

開催日時:令和6年12月17日(火)14:30～16:00
場 所:市役所本庁舎 3階 304・305 会議室

令和6年度 第3回 香南市産業振興計画商業部会報告書

◇ 部会委員 ◎ 部会長 ○ 副部会長

	氏名	所属	出欠
1	◎福井 律	お菓子と雑貨 おひさん	×
2	川崎 慎司	香南市商工会 下元委員代理出席	○
3	近藤 洋好	旅館 かとり	○
4	門田 直也	(有)マルオカ	○
5	大濱 優衣	楽天生命	×
6	小松 孝	高知銀行 野市支店	○
7	横山 昌幸	高知県事業承継・引継ぎ支援センター	×
8	山崎 聡太	高知県経営支援課	○

	氏名	所属	出欠
1	萩野 大輔	商工観光課	○
2	府川 早苗	商工観光課	○
3	野村 直弘	商工観光課	○
4	伊藤 僚	商工観光課	○
5	藤原 奈央	商工観光課	○

☆ 商業部会の開催内容

1. 開 会
2. 挨拶 商工観光課長 萩野 大輔
3. 議 題
 - ・令和6年度商業分野の取組状況について
 - ・第3期 香南市産業振興計画 商業分野の取り組み(案)について
 - ・その他
4. 閉 会

○『令和6年度の取り組み状況』について【PDCA】

【P】（目標値）

○ 令和6年度数値目標：『商業者数 758 者』（R6 年度末）

『新規事務系企業数 8 企業』（R2～5 累計）

○ 実績値(R6.10 月末時点)：『商業者数 ー 者』

『新規事務系企業数 0 企業』

【D】（取組内容）

○空き店舗活用に向けた取り組み

- ・香南市中心市街地活性化計画に基づく取組としては、昨年度の反省点等も踏まえながら、スイーツスタンプラリー第2弾とフジグラン野市とのコラボ企画を実施。スタンプラリー事業においては、「香南市中心市街地活性化計画推進事業費補助金」の交付決定も行っている。
- ・空き店舗の情報発信としては、市内空き店舗物件情報の集約を行い、市のHPに掲載(10月末時点の掲載件数:8件)。
- ・空き店舗等対策事業費補助金については、10月末時点で1件の活用実績あり(11月には、追加で2件交付決定済)。

○担い手の確保に向けた取り組み

- ・事業承継の推進として、市の広報誌等を通じた、事業承継・引継ぎ支援センター等に関する情報提供を実施。
- ・香南市未来人材育成奨学金返還助成事業や創業支援事業については、市HPや広報誌による事業周知、市内企業等に向けた事業広報を行った。

○商業支援

- ・地場産品販売促進事業において、ギフトカタログについては、各種イベントでの物販やカタログ配送によるPRを行った。ふるさと応援寄附金事業については、既に参画されている事業者のみでなく、新規開拓に向けた市内事業者の個別訪問にも注力するほか、コンサル業者とも連携した返礼品の開発にも積極的に取り組んだ。
- ・物価高騰対策と合わせて、市内の消費喚起に繋げる取組として、令和6年10～11月の2ヵ月間利用できる「香南市くらし応援クーポン」事業を実施。

【C】（チェック/確認）

○空き店舗活用に向けた取り組み

- ・「中心市街地活性化計画」の推進については、R4年度の計画策定後におけるこれまでの取組も踏まえ、今後の取組方針・内容の検討や精査が必要。
- ・空き店舗情報については、市 HP を見て問合せをいただく場面も出てきているため、希望者に対してより充実した情報を提供できるよう、今後も努めていく必要がある。

○担い手の確保に向けた取り組み

- ・事業承継については、市へ直接相談に来られるケースはほとんどないため、今後も、商工会や事業承継・引継ぎ支援センターとの連携が重要。
- ・創業者はいるものの、創業支援等事業計画に基づく認定を受けている方はいない状況が続いている。

○商業支援

- ・中小企業者等保証料補給金事業については、市内事業者における対象融資の活用件数自体が少なく、本事業の利用件数も伸びていない。
- ・地場産品販売促進事業における売上に関しては、ギフトカタログは前年度比約 120%。ふるさと応援寄附金事業は、昨年度は 10 月の制度改正に伴う駆け込み需要が 9 月末にあったことから、同時期と比較すると 82% となっているが、全体的には増加傾向で推移しており、現時点(12/17)で、昨年度一年間とほぼ同額の寄附金額となっている。
- ・住宅リフォーム推進事業については、事業開始から 10 年目となり、住民および市内事業者への補助制度の周知が進み、利用率も高く、人気の事業となっている。今年度も、目標値である総事業費 10,000 万円に達成する見込み。

【A】（アクション /改善）

○空き店舗活用に向けた取組として、「中心市街地活性化計画」の推進については、全体協議の内容等も踏まえながら、地域事業者を主体として、今後も取組を推進していく(11/22 第 1 回→12/26 第 2 回ワーキンググループ開催、2 月中に協議会開催予定)。空き店舗情報の発信については、商工会 HP にもリンク先を掲載してもらう等、情報提供の場の拡充を図る。

○担い手確保に向けた取組として、事業承継の推進については、高知県事業承継等推進事業費補助金と合わせて支援できるよう、R7年度に新支援制度の創設を予定。未来人材育成奨学金返還助成事業についても、R7年度より支援対象者の拡充を図ることで、若年層の香南市への定着を図っていく。

○商業支援の取組として、中小企業者等保証料補給金事業における対象事業者の新規認定は今年度末までで終了とする。地場産品販売促進事業では、イベント等での PR を継続して実施するとともに、EC サイトの内容拡充やふるさと納税関係事業者へのサポート等に努め、地元事業者の売上増に繋げていく。住宅リフォーム推進事業については、事業開始より 10 年を迎え、これまでも地域経済の活性化に一定寄与する取組となったため、事業自体の今後の在り方や継続について、検討を行っていく。

○ 第3期香南市産業振興計画 商業分野の取り組み(案)について

◇デジタル化関連について

- 「デジタル化」「IT化」という大きすぎる括りで話をしてしまうと、事業者によってレベル感や温度差がかなり大きく出てきてしまう。「デジタル化補助金」という一つの施策では、なかなか活用は伸びないのではないかという印象。事業者に合わせて、段階を踏んでいってもらえるような仕組みが必要では。個別相談できるような場があってもいいかもしれない。
- 県内商店街におけるデジタル化促進の取組の中で、事例集を作成しようとしている。それぞれの取組内容のレベル感は様々で、そういった事例集を県内の商店街等に普及させていきたい。
- ぐらし応援クーポンの加盟店アンケートをとっている中でも、現時点でキャッシュレス決済を導入していないところは今後も導入予定なしというところが大半。デジタル化に先進的に取り組んでいる事業者と、そうではない事業者とをどう線引きしていくのか。基本的には、やる気のある事業者を引き上げていくという方向性で、手前にもう一段サポートが欲しい事業者にどういうアプローチをしていくか。
 - 事業者訪問の際等には、各事業者にあった施策を適宜紹介していきたい。商工会による巡回の際にも、各事業者にあった支援メニューを連携して紹介していただけたら。各事業者のレベル感に合わせた支援のためには、個別対応をしていくしかないのかなというところ。(事務局)
 - デジタル化に関する相談窓口について、部会終了後に高知県経営支援課より紹介あり
 - ➡ 高知県産業振興センター内に相談窓口の設置あり

◇事業者の生産性向上に向けた取組として(ふるさと応援寄附金事業等)

- せっかくいい商品でニーズがあっても、人や設備の関係で生産量を上げられず、販路を拡げられない事業者も多い。
- ふるさと応援寄附金事業については、制度改正も毎年あるので、そのルールは守りながら、少しでも多くの返礼品を登録することが、寄付金額増額に繋がる一つの切り口と考えている。生産物以外にも、役務提供も返礼品になり得るので、様々な分野の事業者に参加いただいて盛り上げていきたい。事業者情報についても、積極的に提供いただければ。
- 商品開発に活用できる産業振興計画推進事業費補助金もあるので、適宜相談いただきたい。当該補助金については、ふるさと納税に参加いただける場合は、補助率上乘せというような優遇措置を付与することも現在検討しているところ。

◇次期計画の基本的な方針等について

➡特に、異議なし

○ その他についてのご意見等

◇空き倉庫・工場の情報について

- 空き店舗の情報は一定発信されているが、空き倉庫や工場の情報があれば。地震対策として、移転先を探している製造業の方もいる(従業員数5~10人というところ等を想定)ため、居抜で活用できる物件等のまとまった情報があれば、市と商工会で情報共有をしておけたら。

◇移住者への支援について

- 移住はかなり初期投資が必要なので、より活用しやすい支援策があれば、事業承継までには至ってないが、県外から親族を呼び戻すというケースが今後も増えてくるかもしれないので、一つの切り口としてもいいかもしれない。
- 空き家バンクを活用して移住してくるとなると、活用できる支援策は多いが、市に永住する意思があるという原則が付いてくる。例えば、5年間は住むという約束のうえ、一人当たり〇万円お渡しする、というような制度があれば、分かりやすいし、こちらとしても話がしやすい。

◇「住む」環境への支援について

- 工業団地の整備等があった香我美町において、働く場所はあるが、住む場所がないという声を聞く。野市には賃貸物件はまずまずあるが、香我美と比較すると賃貸料も高い。働く方々に、香南市に住んでもらうためには、住む環境というのも一つの検討課題としていく必要があるのでは。例えば、企業が社宅を構えた際に活用できる補助金や、野市に住む方に対する住宅補助といった支援など…。
 - 野市以外で新築を建てる際には、住宅政策課の支援メニューとして、補助金がある。説明等も対応できるので、具体的な案件があれば、適宜繋いでもらえたら。(事務局)
- ※香南市新築住宅取得支援事業費補助金➡R 6年度：現時点で16件の申請受付済

部会開催日:令和6年12月16日(月)14:00～15:30

場所:香南市役所本庁3階304.305

令和6年度 第3回 香南市産業振興計画工業部会報告書

◎ 部会長 ○ 副部会長

	氏名	所属	出欠
1	◎岡本 隆晃	YAMAKIN株式会社 総務部 総務課長	出
2	○中谷 誠一	香南市商工会 工業部会長	出
3	大野 亮	株式会社精工 工場長	欠
4	南崎 宣也	四国職業能力開発大学附属 高知職業能力開発短期大学校 能力開発部長	出
5	田村 知之	公益財団法人高知県産業振興センター 地産地消・外商推進部 外商課長	出
6	森田 清史	香南市商工会 経営指導員	出
7	高山 享之	丸三産業株式会社 香南工場 工場長	欠
8	北 泰子	高知機型工業株式会社 取締役 副社長	出
9	川口 久志	株式会社精工 大野委員代理出席	出

	氏名	所属	出欠
1	萩野 大輔	商工観光課	出
2	府川 早苗	商工観光課	出
3	藤原 奈央	商工観光課	出
4	小松 雅史	商工観光課	出
5	伊藤 僚	商工観光課	出

☆ 工業部会の開催内容

1. 開 会

2. 挨拶 商工観光課長 萩野 大輔

3. 議題

- ・令和6年度工業分野の取組状況について
- ・第3期 香南市産業振興計画 工業分野の取り組み(案)について

4. その他

5. 閉 会

○ 令和6年度の取り組み状況について【PDCA】

【P】（目標値）

数値目標	年度	基準値 (R元年度末)	R2	R3	R4	R5	R6	精査値 ※1	4年間の達成 (達成割合)	備 考
製造品出荷額 (億円)	目標値	500	360	380	400	420	440	1,140	B	工業統計調査 (調査年は前年度の製造品出荷額) ※R元年工業統計結果(速報)の製造品出荷額344億円から、R2年度以降に操業開始を予定している企業の事業計画による見込みと、第2期からの支援施策による増加分を見込んだもの。 ※1 ・精査目標値 R2-R5の累積目標値 ・精査実績値 R2-R5の累積実績値
	実績値	344	344	380	295	387	—	1019		
	達成 (評価)	B	B	A	B	B	—			
新規雇用者数 (人)	目標値	—	5	8	19	16	15	48	A	市内立地企業に新たに雇用された市内在住の人数 ※立地企業の事業計画に基づく予定雇用者数の内、現在雇用している方を差し引いた人数の半数以上が地元雇用者と仮定し、地元雇用者数の70%を見込んだもの。 ※R2,R3年度の実績に勘違いがあり修正。 ※1 ・精査目標値 R2-R5の累積目標値 ・精査実績値 R2-R5の累積実績値
	実績値	—	21	29	17	11	6	78		
	達成 (評価)	—	A	A	B	B	—			

【D】（実行内容）

数値目標である製造品出荷額 440 億円に対し、令和 6 年(調査期間:令和 5 年 1 月～12 月)の経済構造実態調査結果は未だ公表されていないことから、令和 6 年 10 月末現在での評価は示していない。

(※令和 5 年度中の製造品出荷額等の数値は、経済構造実態調査より公表済)

また、もう 1 つの数値目標である新規雇用者数については、10 月 31 日現在で 6 人となっている。

○企業誘致の促進に向けた取り組み

- ・令和6年度に操業予定であった企業が、コロナウイルスの影響及び設計の見直し等により、操業開始が遅延となり、今年度中の操業は現状難しくなっている。

○「既存企業の育成・支援」についての取り組み

- ・商談会の開催については、高知県産業振興センターと連携し 10 月末時点で 21 件の商談実績となっている。
- ・「先端設備等導入支援事業費補助金」については、商工会と連携し、設備導入をおこなう一定数の事業者支援をおこなうことができた。なおR4年度に本計画は期間延長の承認を受けている(現行:R6年度末まで)
- ・人材確保のため取り組んできた「未来人材育成奨学金返還助成事業」については、市内企業等に向けた事業広報を積極的に行い、拡充を行った。また「産業人材育成事業」については、交流会や合同説明で積極的な事業周知を図り、活用を促した。
- ・小学生の夏休み期間(8/7)に、市内企業の工場見学ツアーを開催し、若者の地元定住に繋がる取り組みを実施することができた。(見学企業2社：株式会社ミツヨ 有限会社北村興産 アクトファクトリー)

【C】（チェック/確認）

○企業誘致の促進

補助金申請予定であった1社の操業開始が延期となっているため、今後の継続的なヒアリングが必要となる。
来年度の交付申請を見据えて、企業に進捗確認をおこなっていく。

○既存企業の育成支援

- ・商談会開催事業については、新型コロナウイルス感染症が5類に移行され、予定どおりの商談会の開催ができています。
- ・中小企業者の生産性向上支援事業については、令和5年度税制改正により、中小企業者の前向きな投資や賃上げを後押しするため、新たな固定資産税の特例措置が新設されているが、原油、物価高騰が続いていることが、認定申請が伸びない1つの要因として考えられる。
- ・その他各種支援事業については、立地企業交流会及びものづくり会合同交流会等で周知はおこなったものの補助金の申請件数はあまり増加していないため、今後は企業訪問等も継続的に行い、その際に事業の案内をおこなうなど、周知方法の強化に努める必要がある。
- ・合同企業説明会については、平日の昼間開催のため学生の参加が難しい状況になっており、夏休み期間や休日に開催日を設定する等のより多くの方が参加できる方法を検討する必要がある。
- ・ものづくり教育推進事業については、市内の全小学校にチラシを配布し、周知を行ったことにより、14名の子ども達に参加してもらうことができた。次回はより公平性を持たせるため、抽選方式での参加募集を検討している。

【A】（アクション /改善）

○「企業誘致の促進」については、今後、交付申請予定の1社については、指定申請・補助金交付申請に向けて、ヒアリング等を行いながら連携し進めていく。また、新工場建設に向けて立地企業の雇用スケジュールにあわせて企業説明会・面接会を開催し、1人でも多くの地元雇用に繋げる。

○「既存企業の育成・支援」については、各種支援策の周知をすることで活用を促し、設備導入や雇用等に係る補助金の創設等も検討していく必要がある。また企業訪問や城山高校(2/12開催)での合同企業説明会を開催するとともに、各支援事業の利用件数増加に繋がるよう、関係機関と連携して事業周知の強化に取り組んでいく。

○ 第3期香南市産業振興計画 工業分野の取り組み(案)についての意見・提案

【主な意見】

◇ 商談会開催事業について

- ・ 第3期の目標が第2期と比べて、年度毎にプラス10件となっているが、開催件数としてはどこまでの範囲をカウントして目標設定をしているのか教えて欲しい。

- カウントしている範囲としては、補助金の範囲に関わらず、県内・県外で開催した全ての商談会の開催件数をカウントとしている。令和2～3年はコロナウイルスの影響により対面の商談会の開催ができなかった関係で、開催件数が少なかったが、令和4年・5年と60件以上開催ができているため、直近の実績も鑑みて目標を設定している。

◇ ものづくり教育推進事業について

- ・ 県が開催するオープンファクトリー等と連携してイベントを企画してはどうか。
- 市としても、県と合同で企業説明会は実施している。オープンファクトリーとなると様々な箇所と連携して推進して取り組みしていくものになると思われるため、内容についてはまた確認させていただいて、連携できるものは検討したいと考えている。
- ・ 中学生を対象とした、企業の魅力を知るイベントがないと思うが、今後検討する可能性はあるか。また、小学生では働くイメージを持ってない人もいるため、中学生・高校生を対象とした工場見学等は開催できないか。できれば、市外の生徒も参加できるような仕組みであればありがたい。
 - 中学生を対象としたものについては、職場体験というものを各学校でおこなっており、それが働く魅力を知るイベントの一つであると認識している。また中学生・高校生を対象とした工場見学等については、高校生に関しては県の高等学校課が窓口になると思うが、市外の中学生・高校生を対象とすることや送迎のバスの借上げ料等も含めて、事業的に予算計上が難しい。開催するとすれば工業団地単位でおこなう等の案が考えられるが、予算や内容の検討の時間が必要になってくるため、実施するかどうかは今後検討していく。

○ その他意見や提案について

◇ 外国人労働者数の調査について

- ・ 外国人労働者数を指標とは別にカウントしていくと聞いたが、香南市に立地している企業を対象に外国人労働者数を年度毎にカウントしていくということか。
 - 外国人労働者数を調査する調査先については、第2期産業振興計画で新規雇用者数の調査対象先に加えて、新規4社を追加した計11社を調査対象とする。カウントする理由としては立地企業の雇用の現状把握に加えて、外国人労働者が増加していくようであれば、そこに対しての補助等の検討の必要性が出てくるため、補助に対しての根拠数値として示すことができるからである。

令和6年度 第3回 香南市産業振興計画 観光部会 報告書

◇ 部会委員 ◎ 部会長 ○ 副部会長

	氏名	所属	出欠
1	◎梶原 英正	井上ワイナリー株式会社 香南市観光協会	欠
2	○中西 洸太郎	絵金蔵	出
3	堀田 幸雄	高知県立のいち動物公園協会	出
4	弘瀬 沙也香	香南市観光協会	出
5	高橋 真紀子	香南市商工会	出
6	岡林 順子	創造広場「アクトランド」	出
7	阪部 一仁	(株)ヤ・シィ	欠
8	永野 裕介	土佐くろしお鉄道株式会社	出
9	山本 浩一	リゾートホテル海辺の果樹園	欠
10	濱渦 ゆかり	物部川 DMO 協議会	出
11	大崎 優	高知大学次世代地域創造センター 高知県サイクリング協会	出
	オブザーバー 小笠原 由美	物部川 DMO 協議会	出

	氏名	所属	出欠
1	萩野 大輔	商工観光課	出
2	府川 早苗	商工観光課	出
3	中屋 亜希子	商工観光課	出
4	平尾 智美	商工観光課	出

☆ 観光部会の開催内容

1. 開 会

2. 挨拶 商工観光課長 萩野 大輔

3. 議題

- (1) 令和6年度の進捗状況について
- (2) 第3期 香南市産業振興計画 観光分野の取り組み(案)について
- (3) その他

4. その他

5. 閉 会

○『令和6年度の取り組み状況』について【PDCA】

【P】（目標値）

	R6年度 数値目標	実績値 (10月末実績)	評 価	備 考
観光施設入込客数	121万人	80.4 万人	-	

※ 観光庁の「観光客入込客統計に関する共通基準」に該当する下記対象施設の入込客数。（暦年 1-12月の合計）

【対象10施設】

①県立のいち動物公園 :158,603人 / ②月見山子どもの森 :19,130人 / ③ヤ・シィパーク :233,011人
 ④絵金蔵 : 6,937人 / ⑤天然色市場 :26,895人 / ⑥やすらぎ市 :165,478人
 ⑦あぐりのさと : 8,977人 / ⑧黒潮温泉 :103,585人
 ⑨創造広場「アクトランド」:40,631人 / ⑩土佐カントリークラブ : 48,932人

【D】（取り組み内容）

○情報発信手段の効果的な活用

- ・日曜市や高知新港への参加は減少しているが、県内外イベントに積極的に出店し、ものべがわエリア観光博「ものべすと」の機運醸成を図っている。
- ・HP のアクセス数や SNS のフォロワー数は、タイムリーな情報発信により、前年度を上回っている。

○核となる観光拠点の形成

- ・ヤ・シィパークでは各種イベントへの協力を行っている。
- ・三宝山エリアのワイン醸造施設では新商品の販売を行い、各種コンクール入賞や都市部でのワイン会に参加してブランドを確立している。

○広域観光の推進

- ・連続テレビ小説「あんぱん」放送決定を受けて、人員を増やし県内外への PR を強化している。
- ・博覧会の機運醸成に向けて連続セミナーを開催。

○スポーツツーリズムの推進

- ・サイクルイベントでは、新たにシニアサイクル体験会を実施し、これまでと違ったターゲット層に自転車に興味を持ってもらうきっかけづくりに努めた。
- ・香南市レンタサイクルわくわくクーポンキャンペーンを7月1日から実施。
- ・夜須町の塩の道を活用したトレイルランニングレースでは定員を拡大して実施した。

○おもてなしの向上

- ・高知高等専門学校と連携し、ガイドコースの作成の取り組みを行った。

【C】（チェック/確認）

数値目標 121 万人に対し、実績値が 80.4 万人（達成率 66%）となっており、前年度比 95%（前年度同時期 84.3 万人）となっている。今年度は夏の猛暑の影響により、屋外施設への入込が減少したことや 8 月の南海トラフ地震臨時情報が発令されたことにより、沿岸部の施設への入込に影響したことが考えられる。連続テレビ小説「あんぱん」放送決定を契機に物部川エリアでの観光博覧会の周知活動を県内外で活発に実施している。観光客増加が見込まれるチャンスであることから、各施設が連携して誘客につながる情報発信、周遊促進に取り組む必要がある。

○情報発信手段の効果的な活用

- ・日本人向けには連続テレビ小説「あんぱん」放送を契機にやなせさんのゆかりの地としての PR し、外国人向けには外国語対応できる職員により誘客を図る取り組みを行った。
- ・HP では特設サイトによる情報の発信や各種 SNS の特性に合わせた工夫をしながら情報発信を行った。

○核となる観光拠点の形成

- ・空き店舗へ出店があり、4 月よりカフェがオープンしたが、南海トラフ地震臨時情報の発令があり、イベントの延期や県外客が減少した。
- ・高品質な葡萄が栽培できており、ワインの品質が安定し、受賞数とランクが上がった。人員不足や観光的な側面での来所者数を増やす取り組みができていないことが課題としてある。

○広域観光の推進

- ・連続テレビ小説「あんぱん」への注目度により、アテンドなどが急増している。
- ・ものべのお仕事体験博を継続して実施し、人気の内容もある。

○スポーツツーリズムの推進

- ・サイクリングイベントでは参加者が少ないイベントが多く、各イベントの集客方法や PR 方法が課題となっている。
- ・マリンスポーツでは職員の人数不足により、主催大会は行えていない。

○おもてなしの向上

- ・ガイドが高齢化しているため、若い人の参加が必要である。

【A】（アクション /改善）

物部川エリアでの観光博覧会「ものべすと」に関連してプレイベントの実施や 3 月 30 日にオープニングイベントを開催し、香南市内への誘客、周遊促進を図る。また、高規格道路高知龍馬空港 IC～のいち IC 間の開通に合わせて自転車イベントを開催する。

○情報発信手段の効果的な活用

- ・出店意欲のある事業者の日曜市、高知新港への出店を促す。
- ・HP は継続してイベント情報を掲載し、SNS では途切れのないよう投稿していく。

○核となる観光拠点の形成

- ・店舗の PR 強化により周知を図る。
- ・アイスバー販売では仕入、製造、在庫等の管理体制の見直しや人員配置の見直しを行う。

・高知県産ワインの本数には限りがあるので観光地として機能できる仕組みを検討する。

○広域観光の推進

・教育旅行の新たな素材開発に取り組む。

・ガイドの学びの場や3市ガイドの連携がとれる取り組みを行う。

○スポーツツーリズムの推進

・サイクリングは、イベントの内容の再考を行い、新規イベントを企画していく。

○おもてなしの向上

・ものがわエリア観光博に向けて、ガイドの技術向上を行う。

○ 10月までの取り組みについての意見や提案

◇スポーツツーリズムの推進について

●サイクリングイベントの参加数の目標値が低いのではないかと。良い取り組みであると思うが、結果が伴っていないのであれば見直す時期なのではないかと。(山本委員)

▷自転車イベントは多くて500人くらい。地域によっては、自転車の取り組みが進んでいるところもあるが、やはり道路の整備など安全面の配慮が必要になる。イベントは自転車活用推進計画のほんの一部であり、子どもたちの日常の自転車の教育や道路の整備などある中で観光資源としての自転車の活用を位置付けされているが、かなり出口のところでありまだ、到達していない状態。全力投入の状態ではない。香南市の自転車の取り組みの全てではない。(大崎委員)

▷スポーツツーリズムの推進については、自転車の取り組みとしては切り分けて入れているが、サイクリングだけに限らず、例えばサッカーや他のスポーツも含めて、香南市には青少年センターなど複合的にスポーツができる施設もあるので、そこを活用したスポーツツーリズムの可能性としてはあると思う。スポーツツーリズムに取り組むとなると誘致に向けて検討が必要になるので、市だけでは難しいと思うので観光コンベンション協会など取り組んでいるところに選手のおもてなしや宿泊など観光してもらえる素材を提供はできる。大会の開催は商工観光課だけでは難しいと考えている。(事務局)

○ 前回の部会や策定委員会でいただいたご意見やご提案について

◇物部川エリアでの観光博覧会推進事業費補助金について (R6年度 第2回 観光部会より)

●補助対象者が香南市内の団体になっているため、市外の団体が香南市内で何かやりたいとなっても使えない。例えばヤ・シィパークでイベントを行った場合、利用促進につながる。補助対象者の拡大を検討してほしい。

▷市外の団体であっても香南市民が主体的な活動者として3人以上含まれている場合は補助対象者とし、補助金の目的に沿った事業内容であれば補助していく。

◇観光分野について (R6年度 第2回 策定委員会より)

●新規観光に関する事業者が増える(観光施設が増える)、ここで働きたいと思ってくれる人が増える(観光施設や宿泊施設での雇用が増える)とかそういう目標があったらいいなと思ったところ。(小笠原委員)

▷新規創業に関しては、商工分野の創業支援事業など観光分野においても活用可能であることから、希望に

応じて商工会と連携しながら支援していく。また、観光施設等への雇用については、事業規模や計画等により必要な人数が異なることが予想されることから雇用者数を目標値として設定することは難しいと考えている。雇用につながる場としては、現在、工業分野で実施している合同企業説明会に参加する事業者の分野の拡大を検討し、地元の雇用促進を図りたい。

◇観光分野について（R6年度 第2回 策定委員会より）

●観光入込客数について、インバウンドの指標を目標に掲げてチャレンジしていただきたい。少なくとも有料施設のところは推計でも取るような依頼をして、やはり経年で見ないとどれぐらい増えているのかというのがわからない（江口委員）

▷現在、外国人観光客入込客数を市として把握できているのは、絵金蔵と弁天座のみとなっている。観光施設や宿泊施設のご協力いただける事業者からデータ提供を依頼していく。

○ 第3期香南市産業振興計画観光分野の取り組み(案)について

◇広域連携による周遊促進について

●三宝山エリアの活性化促進ということで次期からまとまってみんなで連携を取っていこうという取り組みをしていくことになった。他の取り組みで同じ業種間などで情報共有はされて場はあるのか。とあるホテルでは社用で使われる方が多いと聞いた。そういった方に訴求ができれば、家族を連れてくるとか、空いた時間に回ってもらうなどできるのではないかなと思う。市の観光にもプラスになると思うので、どういった人が来ているかなどのデータは重要であると思う。（梶原部会長）

▷国をあげてワーケーションやプレジャーという名前にはなるが、仕事できた人が土日に家族も呼んで観光して帰ってというのを国としてやりたいようである。会社として取り組みになるのでバラツキがある。来週、大阪で会社向けの開催の展示会のようなものがあり、国がワーケーションのブースを構えてくれるので DMO 協議会で参加を予定している。仕事できている人たちが観光していくのは需要があるものだと思うので、PR をしていきたい。（小笠原さん）

◇その他

●先日、八咫鳥カップがあった。有名チームが県外から来ていた。試合が目的できているが、終わって観光に回ってもらう取り組みはできないか。合宿とかどうかというアプローチもした。環境的には良いとのことだった。キャンプもされているので、1週間とか来てもらって1日だけ観光の日を設けてPRをしてみてもどうか。（山本委員）

▷ものべ旅クーポンをやった際にホテルからいただいた意見になるが、普段そのまま帰られる方がチケットを持つことで観光やお土産購入につながっていたと聞いている。何か仕掛けがあればつながると思う。お金を出すのは難しいと思うのでいかに魅力を伝えるかになってくると思う。誘客ができるところまでのお手伝いをいただければと思う。（小笠原さん）

▷スポーツだと応援に来て帰られる方が多いと思うのでその時に観光というのは難しいと思うが観光PRなどして次回、前泊して来ようとなればと思うので、そういったことにつながる取り組みになればと思うのでスポーツクラブと連携できればと思う。（事務局）

●大会の誘致関連はスポーツクラブになるのか。（梶原部会長）

▷八咫鳥カップはスポーツクラブになる。誘致するとなるとハード面とマッチではないが、市としてどの競技が適当なのかというものになる。スポーツクラブがノウハウもあるので、サッカーになるのかと思う。話はさせてもらうが、スポーツツーリズムを市として取り組むのかを考える必要がある。(事務局)

●スポーツイベントの情報を知らないが、販売やPRの商機はあると思う。仕組みとしてできて会員にお知らせできたら有益な情報になる。共有できる仕組みがあれば。(梶原部会長)